

みさやま
御射山公園発掘調査現地説明会資料

(財)京都市埋蔵文化財研究所
2008年10月4日
http://www.kyoto-arc.or.jp/

遺跡の概要

御射山公園のある場所は、平安時代は平安京左京四条四坊二町にあたり、平安京の中では東に寄ったところに位置しています。文献には居住者の記録は残っていませんが、鎌倉時代から室町時代にかけても周囲は市街地として発展していたと考えられています。そして、江戸時代には東隣の高倉小学校の場所は織田信則(織田信長の甥)、のちに伊予国(今の愛媛県)松山藩松平家の屋敷として利用されました。その周辺には町屋が建ち並んでいたことがわかっています。

調査の概要

発掘調査は、2008年4月末から始めました。調査区は、東西に細長い北側の1区、南北に長い南側の2区に分け順次調査を進めました。現在は1区の調査が終了し、2区の調査を進めているところです。

1区の調査 江戸時代(約200～400年前)・室町時代(約400～700年前)・平安時代から鎌倉時代(約700～1200年前)・平安京以前(1200年以上前)の4つの面に分けて調査しました。

江戸時代の遺跡：中央に南北方向の大きな溝、溝より西側は東洞院通に面した建物、東側は大きな土坑が重なっています。建物は東西に細長い敷地に柱穴・井戸・カマド・便所などを備えています。土坑からは土器・瓦のほか鉄滓・炭が出土しており、鉄製品の加工が行われたと考えています。

室町時代の遺跡：溝・井戸・柱穴・土坑などがあります。井戸には石組みと木組みのものがあります。西側の大きな四角い土坑は、南北約5m・東西約3m・深さ約1.5mの規模で、底には石を並べ板を敷いていました。地下室のようなものと考えています。

平安時代から鎌倉時代の遺跡：溝・井戸・柱穴・土坑などがあります。北東側の丸い土坑が9基並んでいる遺構は、甕を据えた穴です。室町時代前期になる可能性があります。

平安京以前の遺跡：南向きに流れる川の跡が見つかりました。西岸は調査区外になるので、川幅は20m以上になります。弥生時代後期(約1900年前)の土器がまとめて出土しました。最も古い土器は縄文時代後期(約3400年前)のものでした。

2区の調査 江戸時代・室町時代の調査が終わり、平安時代から鎌倉時代の調査を進めています。

江戸時代の遺跡：蛸薬師通に面した建物が並んでいます。南北に細長い敷地に土間・柱穴・井戸・土蔵などを備えています。南側には石を積み上げた四角い穴蔵があります。石の表面は高熱のため赤く変色しています。北側は土坑が重なっており、中には大量の灰で埋められたものがあります。

室町時代の遺跡：溝・井戸・柱穴・土坑などがあります。南北方向の大きな溝は、1区で見つかった溝の延長になります。井戸はすべて石組みで3基あります。中央から南側は大きな土坑が重なっており、土器などが出土しています。

平安時代から鎌倉時代の遺跡：井戸・柱穴・土坑などがあります。南東隅には平安時代中期の木組みの井戸が2基重なっています。北側の小さな穴は柱穴です。

平安京以前の遺跡には目立ったものはありませんが、わずかながら弥生土器が出土しています。

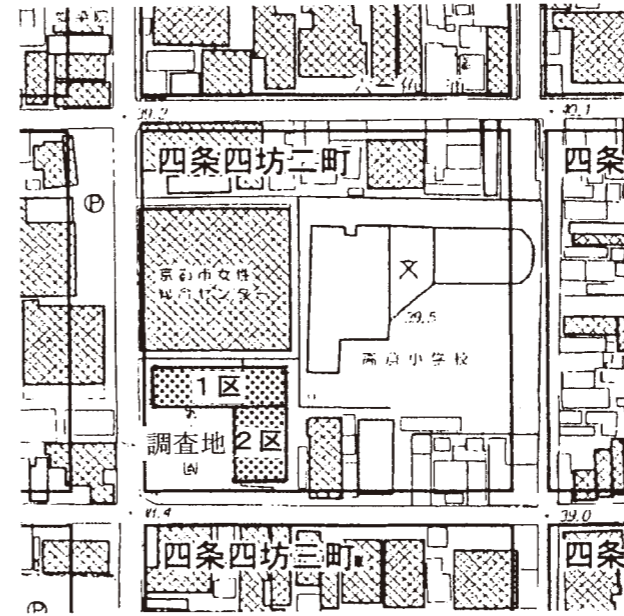


図1 調査位置図(1/2,500)

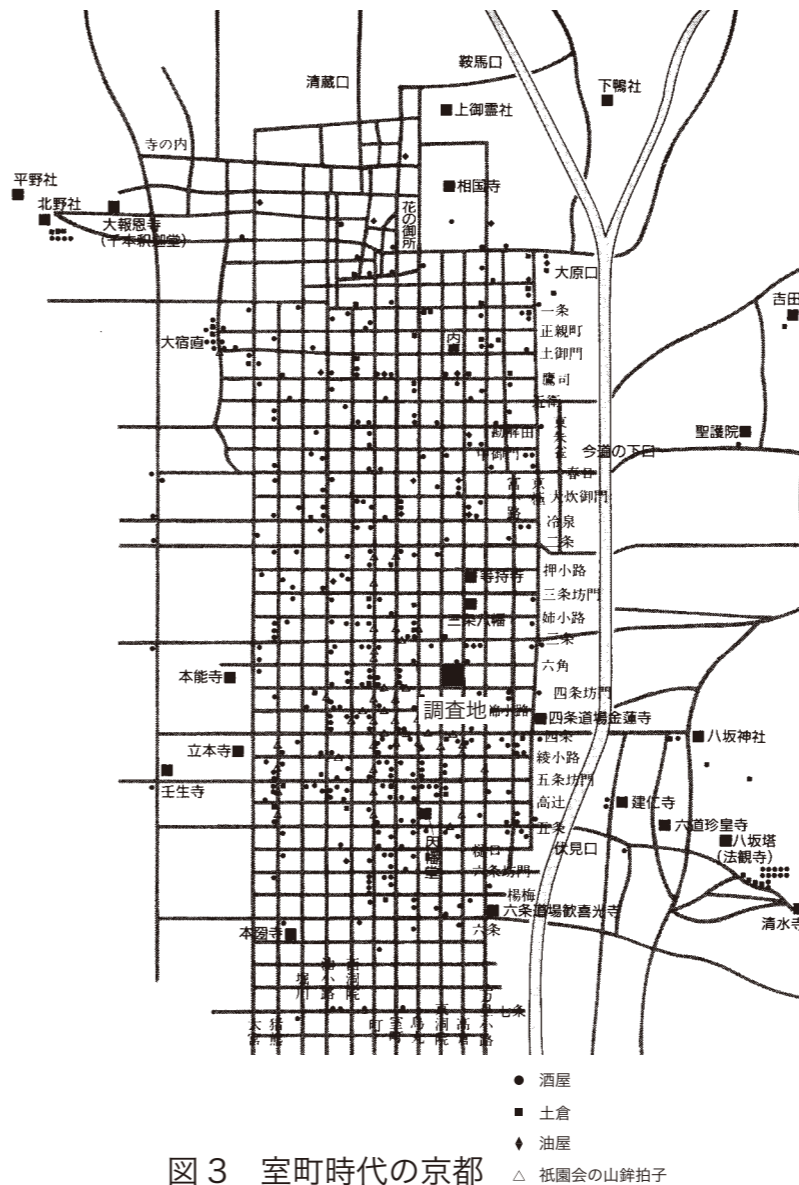


図3 室町時代の京都

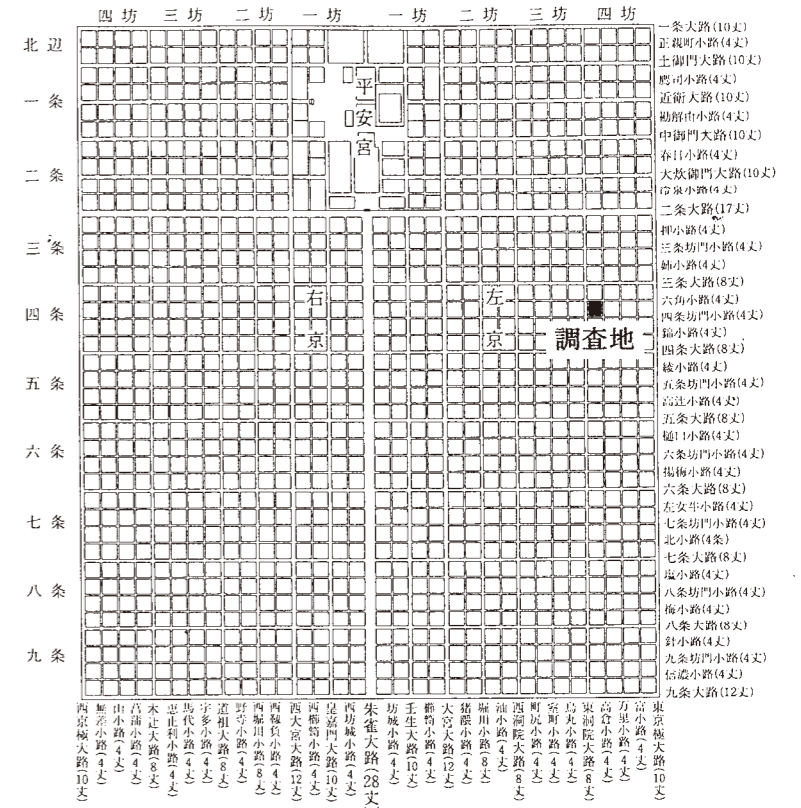


図2 平安京復原図

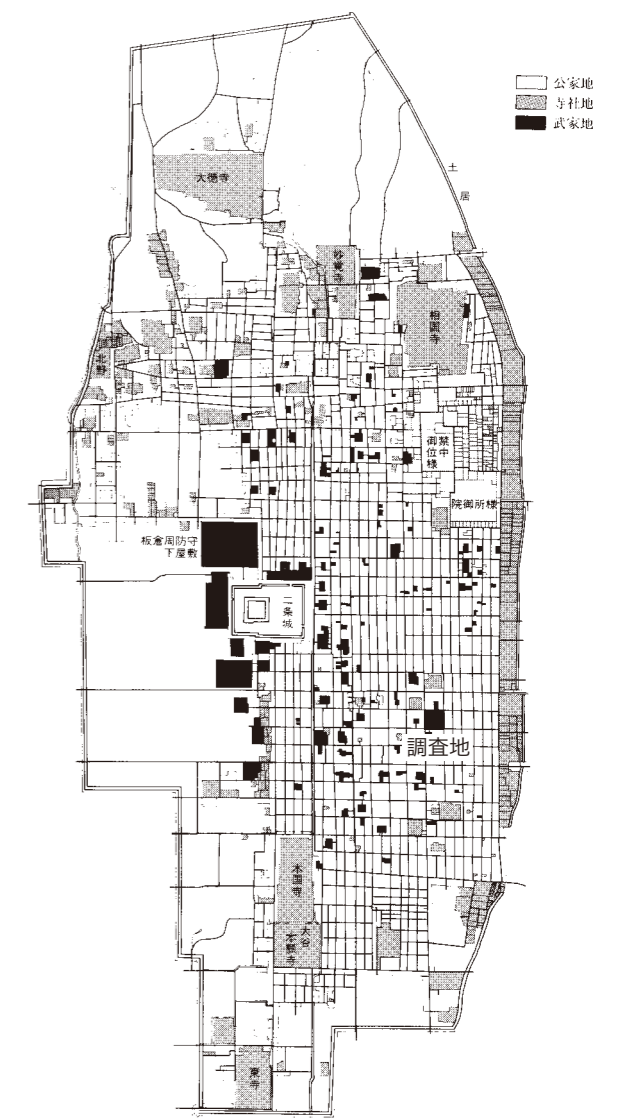
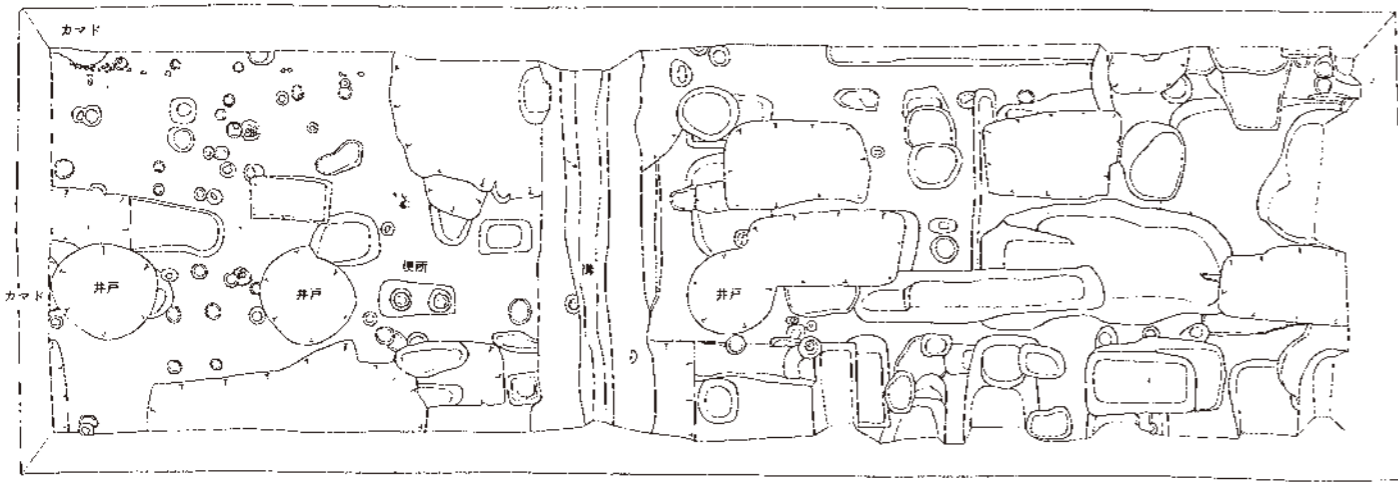
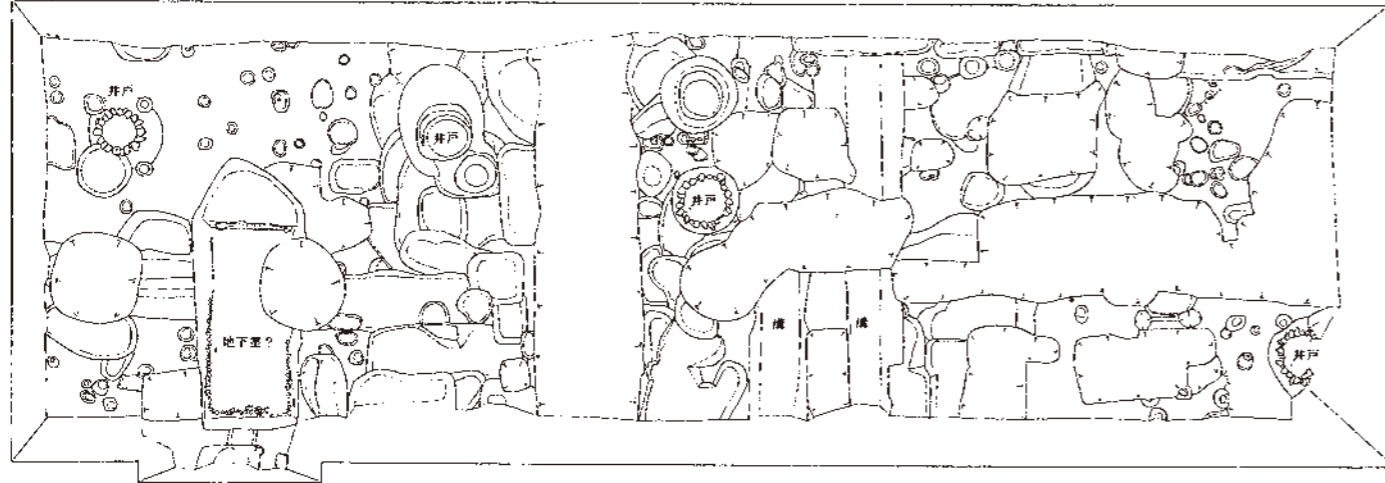


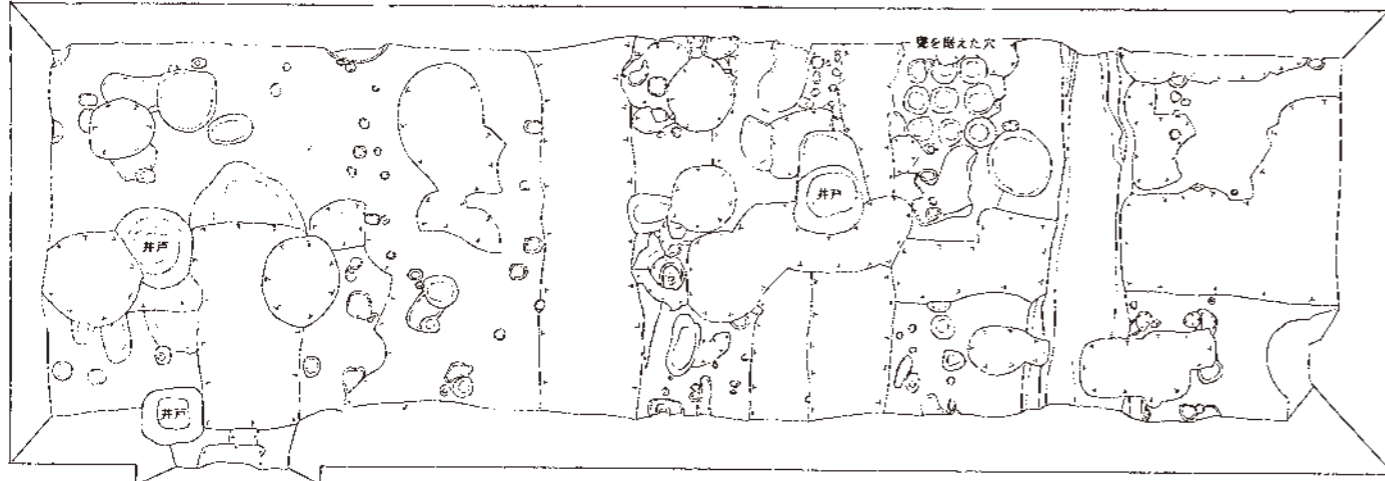
図4 江戸時代前期の京都



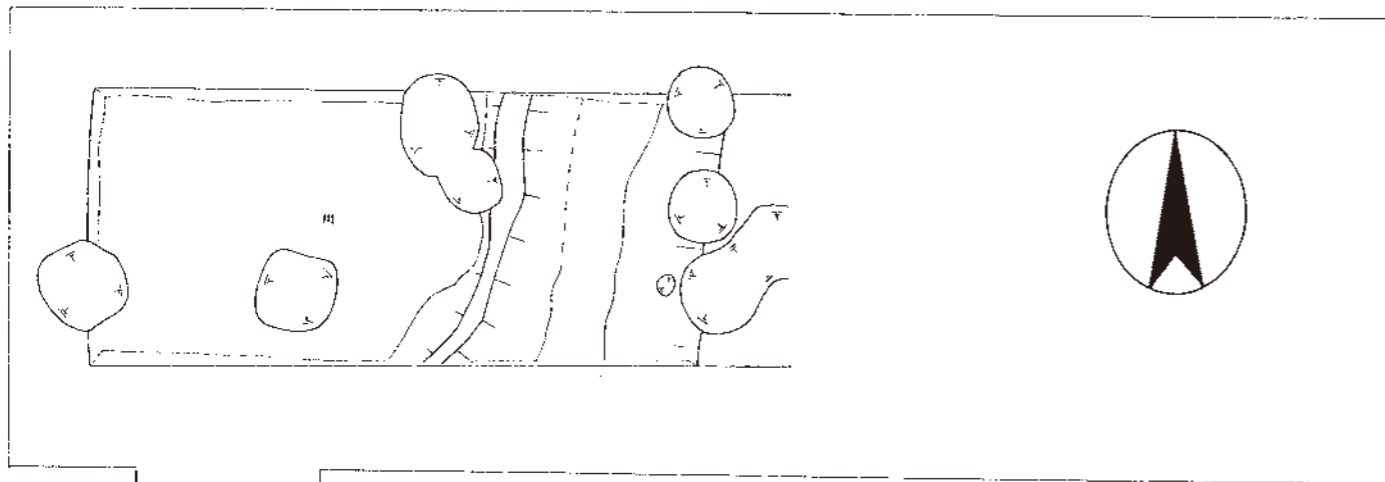
江戸時代



室町時代



平安時代～鎌倉時代



平安京以前

図5 1区の調査(1/200)



図6 2区第1面(江戸時代 北から)



図7 2区第2面(室町時代 北から)